めまい

知っておきたい
漢方３処方

浮腫、悪心、
嘔吐を伴う※

口渇、尿量減少するものの
次の諸症

めまい、頭痛、下痢、暑気あたりに

17 ツムラ五苓散（ゴレイサン）
エキス顆粒（医療用）　（薬価基準収載）

身体動揺感、
たちくらみ
など※

めまい、ふらつきがあり、または動悸があり
尿量が減少するものの次の諸症

めまい、動悸、息切れ、頭痛に

39 ツムラ苓桂朮甘湯（リョウケイジュツカントウ）
エキス顆粒（医療用）　（薬価基準収載）

胃腸虚弱な人、
冷え症※

胃腸虚弱で下肢が冷え、めまい、頭痛などがある者に

37 ツムラ半夏白朮天麻湯（ハンゲビャクジュツテンマトウ）
エキス顆粒（医療用）　（薬価基準収載）

参考：3処方の使い分け（特徴）

体質	尿量減少	めまい・頭痛	冷え・胃腸虚弱
実証			
中間証	**五苓散** 口渇・尿利減少が主目標。浮腫、悪心、嘔吐などの症状を伴う※		
	苓桂朮甘湯 身体動揺感、たちくらみがあり、息切れ、心悸亢進、のぼせ、尿量減少などを伴う※		
虚証		**半夏白朮天麻湯** 胃腸虚弱、冷え症の人で、悪心、嘔吐、食欲不振、全身倦怠感などを伴う※	

監修：市村恵一（自治医科大学名誉教授／石橋総合病院耳鼻咽喉科）

※使用目標＝証　監修：大塚恭男、花輪壽彦（北里大学）　裏面参照

株式会社ツムラ

17 ツムラ五苓散エキス顆粒(医療用)

ゴ レイ サン

効能又は効果

口渇、尿量減少するものの次の諸症:
浮腫、ネフローゼ、二日酔、急性胃腸カタル、下痢、悪心、嘔吐、めまい、胃内停水、頭痛、尿毒症、暑気あたり、糖尿病

〈参考:証に関わる情報〉使用目標=証※

口渇ならびに尿利減少を主目標として用いる。
1)浮腫、悪心、嘔吐、頭痛、めまいなどの症状を伴う場合。
2)心窩部に振水音を認める場合。

使用上の注意

1.重要な基本的注意(1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。
2.副作用　本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。

	頻度不明
過敏症[注1)]	発疹、発赤、瘙痒等
肝　臓	肝機能異常(AST(GOT)、ALT(GPT)、γ-GTP 等の上昇)

注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

3.高齢者への投与　一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。　**4.妊婦、産婦、授乳婦等への投与**　妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。　**5.小児等への投与**　小児等に対する安全性は確立していない。[使用経験が少ない]

(2014年10月改訂)

37 ツムラ半夏白朮天麻湯エキス顆粒(医療用)

ハン ゲ ビャク ジュツ テン マ トウ

効能又は効果

胃腸虚弱で下肢が冷え、めまい、頭痛などがある者

〈参考:証に関わる情報〉使用目標=証※

比較的体力の低下した胃腸虚弱な人が、冷え症で、持続性のあまり激しくない頭痛、頭重感、めまいなどを訴える場合に用いる。
1)悪心、嘔吐、食欲不振、全身倦怠感などを伴う場合。
2)腹部が軟弱で、心窩部に振水音を認める場合。

使用上の注意

1.重要な基本的注意(1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。
2.副作用　本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。

	頻度不明
過敏症[注1)]	発疹、蕁麻疹等

注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

3.高齢者への投与　一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。　**4.妊婦、産婦、授乳婦等への投与**　妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。　**5.小児等への投与**　小児等に対する安全性は確立していない。[使用経験が少ない]　**6.その他の注意**　湿疹、皮膚炎等が悪化することがある。

(2007年5月改訂)

39 ツムラ苓桂朮甘湯エキス顆粒(医療用)

リョウ ケイ ジュツ カン トウ

効能又は効果

めまい、ふらつきがあり、または動悸があり尿量が減少するものの次の諸症:
神経質、ノイローゼ、めまい、動悸、息切れ、頭痛

〈参考:証に関わる情報〉使用目標=証※

比較的体力の低下した人で、めまい、身体動揺感、たちくらみなどを訴える場合に用いる。
1)息切れ、心悸亢進、頭痛、のぼせ、尿量減少などを伴う場合。
2)心窩部に振水音を認める場合。

使用上の注意

1.重要な基本的注意(1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。(3)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。
2.相互作用　併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
(1)カンゾウ含有製剤 (2)グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤	偽アルドステロン症があらわれやすくなる。また、低カリウム血症の結果として、ミオパチーがあらわれやすくなる。(「重大な副作用」の項参照)	グリチルリチン酸は尿細管でのカリウム排泄促進作用があるため、血清カリウム値の低下が促進されることが考えられる。

3.副作用　本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。**(1)重大な副作用 1) 偽アルドステロン症**:低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。**2) ミオパチー**:低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。
(2)その他の副作用

	頻度不明
過敏症[注1)]	発疹、発赤、瘙痒等

注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

4.高齢者への投与　一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。　**5.妊婦、産婦、授乳婦等への投与**　妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。　**6.小児等への投与**　小児等に対する安全性は確立していない。[使用経験が少ない]

(2007年5月改訂)

※使用目標=証　監修:大塚恭男、花輪壽彦(北里大学)

■ 用法及び用量:通常、成人1日7.5gを2〜3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

■ 日本標準商品分類番号:875200　■ 薬効分類名:漢方製剤　■ 取扱い上の注意:(貯法) しゃ光・気密容器/(使用期限) 容器、外箱に表示
■ 製造販売会社:株式会社ツムラ

・ 組成・性状、包装、関連情報(承認番号、薬価基準収載年月、販売開始年月等)については製品添付文書をご覧下さい。
「使用上の注意」等の改訂には十分ご留意下さい。

(2015年5月制作)
(2017年4月改訂)
PSD023 審

株式会社ツムラ
〒107-8521 東京都港区赤坂二丁目17番11号 http://www.tsumura.co.jp/
お客様相談窓口 Tel.0120-329-970